

私と図書館との出会いは大学に入学した後である。それ以前に、小学校の図書室などを利用しなかったわけではなかったが、独立した建物としての図書館を利用したのは大学入学後のことである。とくに古い文献や資料などを参照する専攻分野を選んだわけでもなかったで、私が利用したことのある図書館は片手でも余る程度である。そんな私に『雑感』の原稿依頼が来たので、内心これは困ったぞと思っていた。仕方がないので、『雑感』という言葉の字義どおりにとらえて、大学図書館について思いつくままのことを書かせてもらおうかなどと考えている次第である。思いつくままに書いているとだんだん気遣いじみてくるとは兼好法師が言ったことだが、私としても思いつくままにとは言うものの、正直言って私の知っていることしか書けないのである。従って、私の場合には「情報化社会と大学図書館の機能」とでも言うような内容になってしまうのである。

ところで、図書館の機能を書籍や雑誌などの文献情報にのみ限定せず、映像情報や音声情報などの広い意味での情報に関するサービスを提供する所であると考えれば、図書館の機能とは情報の収集・蓄積・保管・伝達・検索などを備えたデータベースの機能である。さて、近年のエレクトロニクスを中心とした新技術の進歩は、ファクシミリや通信衛星などを生み出し情報伝達の即時性と拡散性を著しく高め、オアシスオートメーションの普及により情報の処理・管理の効率性の上昇し、ニューメディアに象徴される情報の多様化や2種類以上の感覚に訴求するビデオのような「総合化された情報」をもたらし、さらに既存メディアの充実による情報の大量化などの多くのインパクトを現代社会に及ぼしている。

情報化社会と大学図書館の機能

経済学部助教授 渡辺昭夫



情報伝達における即時性や拡散性の増大や、情報の収集・蓄積段階における情報の多様化、大量化や情報の総合化などは、即存の図書館のデータベース機能を大巾に制約ははじめています。たとえば、大量の文献情報が図書館の取能力を脅かし、情報の多様化や総合化は新しい情報記録を利用するため機器の導入を要求し、大量かつ多様な情報を効率的に管理し利用するための道具としてのコンピュータの導入を不可避のものとしている。

このような状況の下で、今後の大学図書館のあり方を考えてみよう。第一に多様化・総合化された情報を利用する閲覧者のニーズに答えるためには、新しい機器の導入・充実を積極的に進めていかなければならない。第二に、従来の文献情報主体の収集を改め、マイクロフィルム・マイクロフィッシュなどを活用して資料の小型化を進めることである。今後は光ディスクなどの高密度の情報記録媒体の導入も併せて考えてゆく必要がある。第三に、情報収集を効率化することである。限られた予算内での情報収集では今後ますます増加することが予想される情報をすべて収集することは1個の大学図書館ではもはや不可能である。そこで、近隣の他大学図書館と協力して情報収集を分散化することで広範囲の情報を収集しやすい体制を確立することが必要になってくるであろう。その前提条件として、文献の相互貸借システムの確立や複写サービスの充実が必要となる。

(わたなべ・あきお 情報処理論)

『図書館だより』

創刊第100号に寄せて

館 動 静

スペシャル

和泉田 正 宏

北海学園創基100周年を祝う式典が昭和60年9月29日、北海道厚生年金会館で盛大に執り行われた。北海学園の貴重な財産であり、本館誕生の基礎となった「北駕文庫」を有する本館が、100周年記念事業の一つである新図書館への移転を間近にして、この『図書館だより』が第100号を迎えることは大変喜ばしいことである。

現在の『図書館だより』が『図書館案内・LIBRARY NEWS』として創刊されたのは昭和33年6月のことである。卒業と同時に母校に奉職して図書館に勤務した私は、「学生時代の利用者」としての経験から「図書館のイメージ・アップ」をめざして、文字通り「手さぐりと手づくり」でスタートした。創刊の趣旨が第1号の編集後記にのぎのように述べられている。

「閲覧室の一新と同時に、此度新着図書のご案内を中心として、その他図書館からのお知らせなどをするために、『図書館案内』を発行することになりました。ガリ版印刷のため見にくいかも知れませんが御愛読のほどお願いいたします。」

記事の内容はつぎのとおりである。

- 1頁 学生生活と読書、寸言
- 2頁 北海学園図書館規則（6月1日改正）
- 3頁 書架を増設（配置図を含む）
- 4頁 新着案内、編集後記

その後、誌名は第29号から『図書館ニュース』と改題するが、私が担当した第45号（昭和40年10月25日）までにいくつかの思い出がある。

まず「寸言」欄である。古今東西の書物と読書に関する名句・名言を連載したところ、利用者からは大好評であった。ちなみに、第1号に登場したのはサミュエル・ジョンソンであった。「人生についての知識のない本は無用である」。

つぎは「大学管理法案」をめぐるわが国の大学が揺れた（昭和37年）とき、早速、雑誌・新聞記事を中心に「大学管理問題索引特集号」（第31号、第34号）を発行したことである。本学の教職員はもとより、他大学の図書館からも注目された。



第三は、図書館を4年間利用した学生諸君のなかから、卒業にあたって心暖まる感想を寄せてもらったことである。氏名とテーマはつぎのとおりである。

- 田中良和：図書館の経済性（昭和34年2月18日）
- 片桐富幸：明日の図書館に期待して（同）
- 渋谷信正：図書館に要望する（昭和35年2月16日）
- 那須 肇：たゆまぬ発展を期待する（同）
- 湯浅国勝：図書館雑感（昭和39年2月21日）
- 広瀬 達：図書館を去るにあたって（同）
- 相茶浄介：図書館に通って（昭和40年2月10日）

第101号は新図書館から生れる。館員一同は情報過剰時代のなかで歩むべき道を模索しつつ、図書館の新しいインフォメーション・サービスを追求して、100号の実績を土台にしてさらに絶ゆまぬ前進を続けるつもりである。

読者諸氏には『図書館だより』にたいして、これまで以上のご支援をお願いする次第である。

（本学事務部長・図書館事務長）

30年で100号達成ドキュメント

—ホップ・ステップ・ジャンプの歩み—

わが図書館の館報として発行している「図書館だより」は、昭和33年6月9日発行の第1号から数えて当号（第8巻4号）で通巻100号目の発行となります。そこで、100号記念の特別企画として、これまでの図書館だよりの歩みを振り返ってみたいと思います。

図書館だよりの歩みは、大別して3つの時期に分けることができます。第1期は、「図書館案内 Library News」として第1号（昭和33年6月）がスタートし、第29、30合併号（昭和37年7月）で「図書館ニュース」と改題になり、第44、45合併号（昭和40年10月）まで続きます。編集、発行は、以前より北海高、札商高、大学、三校の総合図書館の役割を果たしてきたため、第1～10号までは編集、発行 北海学園図書館となっていました。昭和34年7月から北海学園大学附属図書館として新しく発足したので、編集、発行も北海学園大学附属図書館に変わりました。

第2期は、第46号（昭和41年9月）からの「新着図書案内」で、第55号（昭和43年11月）から「新着資料」と改題になり、第66号（昭和50年11月）まで続きます。

第3期は、第67号（昭和54年5月）が、「北海学園大学附属図書館報 図書館だより」第1号として始まり、今日当号で発刊100号目の記念すべき日を迎えることができました。

昭和33年6月9日発刊の「図書館案内 Library News」創刊号は、B4版の模造紙1枚の裏表にガリ版印刷したもので、4P、4段組みの紙面構成です。内容は、1面が大学生活と読書、2面 改正された図書館規則、3面 新しい書棚の位置、4面 新着図書案内となっており、1面の巻頭言と編集後記は、「大学生活と読書」と題して、現大学事務部長兼務図書館事務長の和泉田正宏氏が執筆しております。図書館案内の各号からおもしろい記事を拾ってみます。第2号（昭和33年7月）の雑誌の読書調査によると、最も読まれているのは、一般誌で文芸春秋、中央公論、婦人公論、世

界、アサヒカメラの順、専門誌では、経済セミナー、東洋経済新報、経済セミナー、エコノミストなどの経済誌が利用の65%で圧倒的に利用が多いとあります。また、第15、16合併号（昭和35年2月）の読書調査では、愛されている日本作家として、武者小路実篤、夏目漱石、石坂洋次郎、感銘を受けた外国作品として、罪と罰、赤と黒、狭き門、アンネの日記、戦争と平和などが挙げられています。

「図書館ニュース」に改題（第29、30号昭和37年7月）してからは、第31～35号を除いて、活版印刷（4P）となり、第42、43合併号の内容は、図書館白書、図書館に通って、学術雑誌速報、新刊図書案内、春休み中も開館、受贈学術雑誌一覧となっています。

第55号（昭和43年11月）からは、「新着資料」と改題になりました。第55号は全56ページで、内容は新着資料、雑誌特集件名目録、新受入雑誌リスト、図書館日誌、新築図書館紹介となっております。「新着資料」は、第67号（昭和54年5月）から改題し、「図書館だより」第1号としてスタートし、現在に至りました。「図書館だより」第1号は10Pで、内容は古典カレンダー、新着図書案内、洋書案内、アインシュタイン生誕100年特集、Sir. Harrodを偲んで（柴田義人）、B.ラッセル伝2つ（山下和夫）、利用案内、告知板、昭和53年度図書雑誌受入状況、備付け希望図書コーナーの新設、編集後記、別冊；一図書館からのお知らせ 第1号 昭和53年度 バックナンバー及び主なる図書一（5P）となっています。通巻73号（第2巻1号 昭和55年4月）からは、活版印刷となり、年4回、12P、1,200部発行の現在の編集、発行体制の基礎ができあがり、現在に受け継がれております。尚、「図書館だより」の題字は、発行当時、館長に在られた教養部 小野誠二先生の揮毫によるものです。

(S)

館 動 静

スペシャル パート2



新 図 書 館

北海学園創基百周年記念事業の一つとして、現在まで新図書館の建築が進められてきましたが、一部内装工事、備品の搬入を除いてほぼ完成し、新学期のオープンに向けて移転の準備作業が進められています。

次に、新図書館の概要について説明いたします。建物は地下1階、地上6階で、内、図書館の総床面積は11,084m²で、1階南側が自由閲覧室、2、3階が閲覧室、地下1階、1、4階が書庫、5階が将来の書庫増設部分となっております。また、地下1階、1、3、4階の書庫には2層式書架が設置されています。このため、これらの階は2層に分れています。尚、2階はワンフロアです。

収容可能冊数は、地下1階から4階までの収容可能冊数(61万冊)と5階の将来書庫増設部分(22万冊収容可能)を合わせて83万冊です。座席数は、1階自由閲覧席78席、2階163席、3階224席計465席です。

施設と資料の配置についてご説明いたします。地下1階には北駕文庫室が設けられ、貴重な古文

新図書館の ご案内

館内案内図

4 F	2 層	書庫	洋書
	1 層	書庫	和書
3 F	2 層	書庫	和書、参考図書
	1 層	閲覧室	カウンター、館長室、開架図書、グループ閲覧室、AVコーナー(予定)、マイクロ室
2 F		閲覧室	カウンター、事務室、開架図書、雑誌ブラウジングコーナー、目録コーナー、コピー室
1 F		自由閲覧室	2 層 洋雑誌
		学生入口	1 層 和雑誌
地下 1 F		書庫	北駕文庫、小林文庫他 文庫類、官報等

書の宝庫である北駕文庫(31,000冊)が収められます。また、集密書庫には、小林文庫他文庫類、官報等が置かれます。1階書庫部分は2層になっており、1層には和雑誌(2,109種)、2層には洋雑誌(512種)が配置されます。南側には自由閲覧室と新聞コーナーがあります。

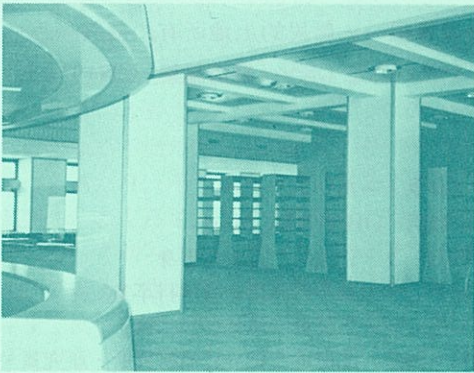
2階閲覧室はメインフロアで、閲覧席、カウンター、事務室と開架図書(2F、3F計31,000冊)、雑誌ブラウジングコーナー、目録コーナー、コピー室、ブック・ディテクション・システム(このシステムにより館内利用手続が不用となる。)があります。3階閲覧室には、閲覧席、カウンター、館長室、開架図書、グループ閲覧室(2室、1室14名収容)、AVコーナー(予定)、マイクロ室、身障者用トイレがあります。

3階2層、4階1層の書庫には、和書53,000冊、参考図書5,000冊、4階2層の書庫には、洋書29,000冊が収められます。(S)

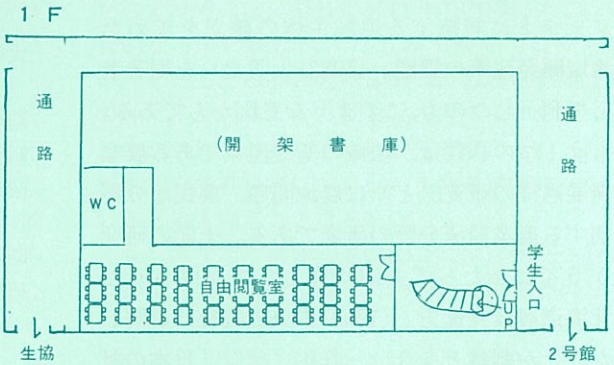
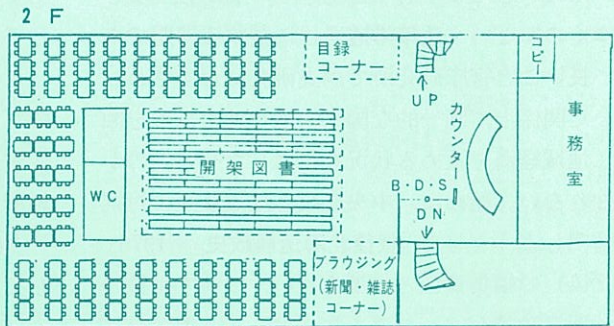
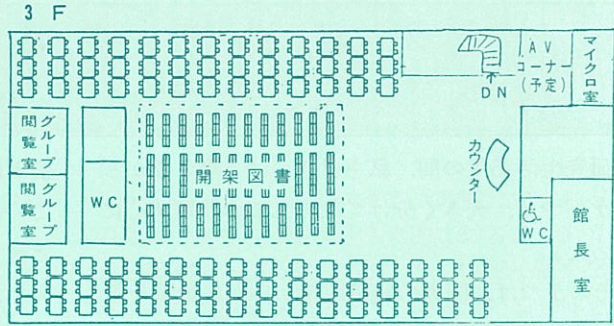
1F～3F 閲覧室 (概略)



学生入口



2階閲覧室



生協

2号館

新着雑誌

アステーション 1: 昭61+/千葉大学 法学論集 千葉 創刊号: 1986年+/千葉大学経済研究 創刊号: 1986/7+/地方自治 (地方自治制度研究会) 461-467: 昭61+/中国語研究 25-26: 昭61+/判例地方自治 1-22: 昭59-昭61+/北海道東海大学教育研究年報 旭川: 昭60年度+/アイディア (Idea) 34 (194-200): 昭61+/印度哲学仏教学 (北海道印度哲学仏教学会) 1: 昭61+/Iichiko, 季刊 no 1: 1986+/自治体学研究 (神奈川県自治総合研究センター) 1-8: 昭54-昭56/事務と経営 (日本経営協会) 38 (469-478): 昭61+/基礎中国語 1 (1-8): 昭61+/広告 27 (254-259): 昭61+/極東国際軍事裁判連記録〔復刻版〕(新田満夫編) 1-10 (1-416): 昭21-昭23/[南山大学]南山経済研究 1巻 1号: 昭61/8月+/〔奈良女子大学大学院〕人間文化

研究科年報 1: 1985+/大阪市立大学証券研究年報 1: 1986+/西南学院大学 国際文化論集 第1巻 1号: 昭61/7月+/This is 3-4 (23-35): 昭61-昭62+/築地小劇場〔復刻版〕 1-7: 大13-昭5/早稲田大学現代政治経済研究所研究叢書 1: 昭60+/地球 91: 昭62/1月+/中国語 (中国語友の会) 313-325: 昭61/1月-昭62/1月+/映画芸術 (プロダクション映芸) 第34巻 1号: 昭62/1月+/えとのす (新日本教育図書) 30: 昭61/7月+/辺境 第3次 1: 昭61/10月+/創造の世界 57-60: 昭61+/Journal of legal education. (Association of American Law Schools.) Ithaca. 36 (2): 1986+/Journal of the Mathematical Society of Japan. Tokyo 24 (1972)-36 (1984)/London & Cambridge economic service. Monthly bulletin. London 1 (1923)-29 (1951) [Reprinted, 1978]

私のテーマと著作

経済学部教授 大沼盛男

研究生活25年の間、私を引きつけて離さなかったテーマは、大きく分けて次の二つの問題関心であった。

その1つは、国家の経済政策がいかに地域を把握し、それがどんな矛盾や抵抗を生みながら実現し、ゆくののかという政策浸透過程に関する課題である。長いこと官庁研究所で調査研究にたずさわっていた関係上、画一的な国家政策が地方自治を蝕み、地域経済を歪める状況を眼にしたせいなのかも知れない。始めに、中央農政と地域農政の対抗を解明しようとした「戦後北海道農政史」(1976・農文協)で編集責任と執筆を負い、ついで戦後の地域開発政策が辿った道を総点検し、大型開発プロジェクトに対抗する地域主体の確立を求めた「地域開発政策の課題」(1983・大明堂)を編著者として刊行したのも、このような意図からである。

もう1つの課題は、地域の基礎産業である農業の発展過程の研究、とくに農地問題、農民層分解に関する農業経済分野の研究である。上記の研究所が6年にわたって共同研究として完成させた「北海道農業発達史」(1963・中央公論社)に関わったことが刺戟となり、一昨年、講座「日本の社

会と農業」(全8巻・日本経済評論社)に参画した。この講座は全国の主要農業地域を対象として風土と歴史に立脚した農業・農村の再構築を試みたもので、北海道編は私を含め3名の編著者によって、第1巻「日本のフロンティアのゆくえ」(1985)として刊行された。

さらに、これまでの農業経済研究の一応の締めくくりとして、農地問題、とくに土地所有の歴史の変質過程の分析を「日本資本主義の農地政策と土地所有の再編——農民的土地所有の変貌過程——」にまとめ公表(本学「経済論集」1984年3月)している。

(プロフィール)

大沼 盛男 OHNUMA, Morio

(1931・2・17生) 宮城県出身

昭和28年 北大農学部農業経済学科卒業

昭和34年 同大学院農学研究所修士修了

昭和37-55年 北海道立総合経済研究所・研究員・
農村経済課長

昭和56- 本学経済学部教授・農学博士

研究分野 経済政策/地域経済/農業経済/農地問題/
農民層分解

新着図書(選) - 教養

完本紙つぶて 谷沢永一 1969-78 谷沢永一著 文芸春秋/古本屋の手帖 八木福次郎著 東京堂出版/「架空の人物」人名事典 日本実業出版社編 日本実業出版社/架空人名辞典 欧米編 教育社編/日本人の選択 一世界のなかの日本一 江崎玲於奈 小学館/日本はこうなる 糸川英夫著 講談社/虫の春秋 奥本大三郎著 読売新聞社/超LSIの時代 豊田博夫著 岩波書店/エッシャーの宇宙 B.エルンスト著 朝日新聞社/スクリーンの中の文化英雄たち 山口昌男著 潮出版社/ヒッチコック映画術 F.トリュフォー著 晶文社/国語辞典にない言葉 続 松井栄一著 南雲堂/日本語表と裏 森本哲郎著 新潮社/英語化する日本社会 H.パッシン著 徳岡孝夫訳 サイマル出版会/学生・初心者のための原稿用紙に書く方法 - レポート, 小論文, 作文, 論文の書き方 - 白佐俊

憲著 札幌富士プリント出版部/卒論・ゼミ論の書き方 早稲田大学出版部編 新装版/文学ときどき酒 一丸谷オ一対談集 一丸谷オ一〔ほか〕著 集英社/これからの出来事 星新一著 新潮社/四千万歩の男(蝦夷篇)上, 下 井上ひさし著 講談社/見返り美人を消せ 石井竜生, 井原まなみ著 角川/ドナウの旅人 上, 下 宮本輝著 朝日新聞社/河馬に噛まれる 大江健三郎著 文芸春秋/豊臣秀長 上, 下 堺屋太一著 PHP 研究所/食卓のつぶやき 池波正太郎著 朝日新聞社/私は嘘が嫌いだ 糸井重里著 話の特集/生き方の定義 一再び状況へー 大江健三郎著 岩波/時代を読む - コラム 批評100篇 1982-1985- 鮎川信夫著 文芸春秋/ニングル 倉本聰著 理論社/バルト海のほとりにて 小野寺百合子著 共同通信社/疑惑の航跡 一大韓機撃墜事件, 安らかに眠れ妻と子よー 武本昌三著 潮出版/ガンと戦った昭和史 塚本憲甫と医師たち 上 文藝春秋

『生きがいについて』

神谷 美恵子 (みすず書房)

この本は著者が瀬戸内海の島に隔離されて住むライ患者の精神科医として通い、彼らの生きがい問題について考えるうちに書かれた。

なぜ私たちがなくあなたが？

あなたは代って下さったのだ

べつに理屈ではない。ただ、あまりにもむざんな姿に接する時、心のどこかに切なさや申し訳なさで一杯になる。著者の立場である。

しかし生きがいをうばい去るものはライだけだろうか？ 老、死、病、苦、疎外と孤独、無意味感、絶望、不安、悲しみ等々。明るい日常生活のなかに平穏に暮しているとき、人は人生のこのような面に本当には気がついていない。人はそれぞれの生涯のなかで、ちがった時期にちがった形で、人生のゆく手にたちふさがるこの壁のようなものにつきあたり、その威力を思い知る。局限状況は人間の心のもろさ、どんな微妙なバランスの上にかろうじて踏みこたえているものであるかをはっきりさせる。生きがい喪失者の心の世界、それは今まで安住していた世界が突然、「音を立てて」「ガラガラと」くずれ去り、「こなごなに」こわれてしまう。地盤が足もとからなだれ落ち「底知れぬ闇の中に無限に転落していく」。人間というものがみな、なんらかの足場を持って生きているということは、これを失ってみてはじめて愕然と意識されるのである。その時人は自暴自棄になり自殺、犯

罪、酒、麻薬やデカダンス、ニヒリズムに陥る。しかし、これらは我慢のなさ、時間に対する不信の念、つまりみな短気をおこしているのである。もし新しい生きがいを見いだしたいと思うならば、まず一切をみかぎってしまいたい心を抑えることから始めなければならない。もし忍耐を持つことができれば、長い時間の経つうちには、次第に運命のもたらしたものをすなおに受け入れることができるようになるであろう。避けることのできないものは受け入れるほかはないという、いわばあたりまえのことを、理くつではなく、全存在でうけとめるようになる。新しい生存目標の発見は、急激に一拳にして行われることもあれば、長い苦しい暗中模索を経て成ることもある。いずれにしても、その新しい目標が彼に生きがい感をもたらすためには、それが彼自身の内部にある、本質的なものの線に沿ったものでなくてはならない。そしてこの心の変革体験は、歓喜と肯定意識の外に多かれ少なかれ使命感を伴っている。つまり生かされていることへの責任感である。人間の根本的な生存目標は、自己の生命を誠実に、いきいきと生きぬくことである。

もしあなたの肉体が病気になれば、病院へ行くように、心が危機に陥った時のためにお薦めしたい一冊です。

新着図書(選) - 経済

演習ノート行政法 田中館 照橋編 法学書院/ミル・マルクス、河上肇 一経済思想史論集一 杉原四郎著 ミネルヴァ/「中国市場」の本当の読み方 “二つの顔”をもつ革命国家の行方 稲垣清著 PHP 研究所/概説イギリス経済史 米川伸一 有斐閣/多国籍企業と発展途上国 尾崎彦朔 奥村茂次編 東大出版会/企業内の意思決定 だれが影響力を持っているか 石川晃弘、犬塚先編著 有斐閣/マッキンゼー成熟期の成長戦略 大前研一編著 プレジデント社/コンピュータによる設計・生産・管理 中島勝編 共立出版/実践トヨタカンバン方式 関根憲一著 につかん書房/中堅・中小企業のための生産管理システム 田中一成著 日刊工業新聞社/日立の生産革命 日本能率協会編/情報関連産業論 太田文平著 千倉書房/比較研究日本の自動車工業 碓義朗著 日本能率協会/

トヨタ生産方式の新展開 門田安弘著 日本能率協会/マツダの現場革新 日本能率協会編/東芝のルネッサンス 日本能率協会編/自動車産業脱成熟時代 下川浩一著 有斐閣/ソニー新時代 加納明弘著 プレジデント社/IBM 一情報巨人の素顔一 R.ソーベル著 ダイアモンド社/コンピュータ不正の発見と防止 金井浄著 第一法規/コンピュータ症候群 中川由章著 税務経理協会/産業構造の転換と巨大企業 木村敏男(ほか)著 東大出版会/地域開発政策の課題 大沼盛男(ほか)編著 大明堂/農産物価格と地代の論理 花田仁伍著 ミネルヴァ書房/日本農業問題の展開 上、下 暉峻衆三著 東大出版会/食糧支配 J.ウェッセル著 時事通信社/サービス産業 これからの10年 日本能率協会サービス産業研究委員会編 日本能率協会/消費者教育のすすめ 米川五郎著 有斐閣/人材派遣業法 小井上有治著 税務経理協会

オーストラリア・シドニー大学 図書館のシステム

経済学部教授 内田昌利

University of Sydney は学生数18,000人、教職員4,000人（うち教員1,800人）を擁するオーストラリア最大・最古（といっても百年の歴史をもつにすぎないが）の総合大学である。

シドニー大学の図書館は、Fisher Lib.と呼ばれる中央図書館と19の学部図書館（Branch and Department Libs.）とから成っている。

私が1年間お世話になった会計学科は経済学部へ属し、その建物 Merewether Bldg.の1階に Wolstenholme Lib.という学部図書館がある。そこで通常の用は足せる。そこで足せない時は中央図書館に出かけ、研究スタッフ用図書がきちんと分類整理されている書庫に入り、それでも目当ての文献を見つけ出せない時には、インフォメーション・デスクの館員にその旨相談すると、コンピュータのキーボードを素早く叩いてその所蔵先を確認してくれる（そのシステムは内外の主要な Computerised information retrieval systems にアクセスでき、あらゆる分野にわたって200以上のデータ・ベースを検索に利用できる。）そして希望すれば、他大学・研究機関からの借出（interlibrary loan）のサービスを国内であれば2週間程度でうけることができる。

図書の貸出・返却の手続は至極簡単で、本と貸出カードを貸出カウンターに持っていくと、係員がそれらを磁気読み取り装置にかけて自動的にコンピュータ処理し、借手は何も書きこむ必要もなしに即時に借り出せる。退館時に鉄製のバーを向うに押して外へ出る時、磁気チェックを受けるようになっていて、正規の手続

を経ないで図書を館外に持ち出そうとする者は、バーが全く開かないので出られず、その傍に開館中常に座っている男性館員によって持物のチェックをおのずとうけるはめになる。図書の紛失・盗難はこうしたシステムの存在によって予防されている。私も知らなかったとはいえ、館外持出禁止の Rare Book Lib.の貴重文献を学部でコピーするために持ち出そうとしてこのチェックをうけた苦い経験がある。

また貸出期間を越えた者には金銭的ペナルティが課せられる。初めの頃、たまたま貸出期間が2カ月の研究スタッフ用図書ではなくわずか2週間の学生用図書を借りたために、いつしか期限が切れその約1週間後図書返却と罰金支払の督促を封書で受けとった。これらの手続きもみなコンピュータ処理されていて、情容赦もない。私はその書類をもって会計課の窓口で3冊1週間分の罰金計\$6.80を支払わなければならなかった。（これを払わなかったならば、きっとブラックリスト（？）に載せられ以後の貸出サービスをうけられなかったであろう。）

学部図書館で最もよく利用されていたのが Special Reserve のシステムで、それは各教科の講義の細目テーマ毎に用意された文献資料（そのほとんどは各教員がアレンジした自他の論文のコピーで、毎週差し替えられる）で閲覧係のカウンター内に常備され、学生は索引の助けを借りて希望の資料を見つけそのコピーをとって、自分の履修する科目の学習を補強することができる仕組みになっている。この仕組みについても私は知らず、講義・ゼミに参加させてもらって数週間経ち初めて学生に尋ねて教わった仕末。それまでは手ぶらで予習もせず出席し、大変失礼してしまった。

一事が万事、外国に初めて出るとこうした制度・仕組み・慣習の違いを飲み込むのに半年はかかると言われているが、私も御多分に洩れず、言葉のハンディが軽減されたのはそれ以降であった。

（うちだ・まさとし 管理会計論）

新着図書(選) - 工学

寒冷地域の自然環境 福田正己著 北大図書刊行会/
情報基礎学演習 坂井利之著 コロナ社/工学を創った天才たち J.カービス著 工業調査会/数量化理論入門 小林龍一著 日科技連出版社/多変量解析法 奥野忠一(ほか)著 改訂版 日科技連/地震学 宇津徳治著 第2版 共立出版/生命科学の世界 渡辺格著 日本放送出版協会/都市人類の心のゆくえ 一文化精神科学の視点から 野田正彰著 日本放送出版協会/見える力学 一力と稿一 松井源吾著 鹿島出版会/金属系新素材 科学技術庁金属材料技術研究所編 日刊工業新聞社/土質工学用語辞典 土質工学会/ポケコンによる手計算完全省力土木測量トラバスの平均計算法 金井弥太郎著 山海堂/土質試験法 土質工学会編/杭基礎の設計法とその解説 土質工学会編/斜張橋の設計と施工 W.ポドルニー J.B.S.

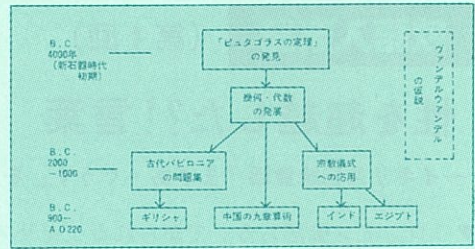
カルジー著 九州大学出版会/合成桁の理論と設計 島田静雄, 高木録郎著 山海堂/トラス橋の理論と設計 島田静雄, 熊沢周明著 山海堂/建築からの仕掛け 一リ・インカネーション展 1980-1985- 東孝光編 学芸出版社/DA(Drawings of Architecture) 建築図集 日本建築家協会編 彰国社/鋼構造学 伊藤学著 コロナ社/商空間の設計技法 東直彦著 理工図書/都市住居の空間構成 一住民における空間連結手法の研究- 東孝光著 鹿島出版会/図解伝熱工学の学び方 北山直方著 オーム社/原発の安全上欠陥 研究会編 第三書館/MS-DOS プログラマーズハンドブック アスキー書籍編集部編著 アスキー出版局/MS-DOS マクロアセンブラ入門 藤木文彦著 ナツメ社/98マシン語 一初めて学ぶマシン語の集中レッスン- 藤木文彦著 技術評論社/最新コンピュータ用語の意味がわかる辞典 大沢光著 日本実業出版社

ロマンの三角形 (最終回)

太陽の光と魂の光と

▼ノイゲヴァウアー教授が粘土板の中に「知恵の真珠」とも言うべき「ピュタゴラスの定理」を見出して40年。この間にも古代数学の新しい知見が加えられている。▼ノイゲヴァウアー教授と共に古代数学の双壁の一人オランダのヴァン・デル・ヴァンデン教授はピュタゴラス研究家として著名だが、彼は古代バビロニアの数学がユークリッドの『原論』の中に引き継がれたと実証する。▼ $x+y=a$, $xy=F$ のとき古代バビロニアの人々は x , y の値をそれぞれ $\frac{a}{2} \pm \sqrt{\left(\frac{S}{2}\right)^2 - F}$ として求めたが、これは $\left(\frac{x+y}{2}\right)^2 = xy + \left(\frac{x-y}{2}\right)^2$ のピュタゴラスの定理を想起し、それから $\frac{x+y}{2}$ を求め、 $\frac{x+y}{2}$ とプラス、マイナスすることによって x , y を求めたのだ。▼同様のことは、 $x+y=a$, $x^2+y^2=F$ のとき、 x , y の値はそれぞれ $\frac{a}{2} \pm \sqrt{\frac{F}{2} - \left(\frac{a}{2}\right)^2}$ として求めたが、そこには $\frac{x^2+y^2}{2} = \left(\frac{x+y}{2}\right)^2 + \left(\frac{x-y}{2}\right)^2$ という「ピュタゴラスの定理」を想起出来たからであった。▼こうした「ピュタゴラスの定理」はユークリッドの『原論』では第2巻の中に「命題」と「図形」によって述べられている。▼ヴァン・デル・ヴァンデン教授は言う。「明らかに、ピュタゴラス派はこれら連立方程式を解くためのバビロニア人の規則を幾何学的に定式化し、かつそれを証明した。」「バビロニア人の標準化したすべての方程式が、例外なくピュタゴラス派の数論と幾何学にその痕跡を残しているとの結論を得るのであ

古代バビロニアの数学



る。」と(『数学の黎明』)。バビロニア人のこうした手法はユークリッドを経てローマ時代のディオファントスの方程式の解にも引き継がれた。▼ヴァン・デル・ヴァンデン教授は後世への影響を跡づけたばかりでなく、「ピュタゴラスの定理」のさらに遠い起源についての驚くべき仮説を提示する。その仮説とは「ピュタゴラスの定理」の「啓示」とも呼ぶべきものだ。▼教授によれば「ピュタゴラスの定理」は古代バビロニアの紀元前2000年よりもさらに2000年前、新石器時代が始まる紀元前4000年には発見されたと言うものである。▼この仮説は「ピュタゴラスの定理」が数学発展の途上で見いだされたものでなく「はじめに定理ありき」という大胆なものだ。▼太陽が現われて5兆年。地球の起源は45億年前。人類が誕生してから5万年。気の遠くなるような歴史の中に我々は生きている。太陽の光が自然と人類にとって恵みだったと同様「ピュタゴラスの定理」も又「魂の光」だったのではなかったか。(完) (世)

<ほん> ヴァン・デル・ヴァンデン『数学の黎明』(みすず書房, 1984年)。B.L. Von der Waerden; Geometry and algebra in ancient civilizations, Springer, 1983.

新着図書(選) - 法律

アメリカの政治を知るために 石丸和人著 教育社/情報公開 八木敏行著 有斐閣/日本の地方政府 大森彌, 佐藤誠三郎編 東大出版会/法 一その存在と効力一 竹下賢著 ミネルヴァ/法女性学のすすめ 一女性からの法律への問いかけ一 金城清子著 改訂版 有斐閣/憲法学の開拓線 手島孝著 三省堂/憲法 山下健次編 青林書院/物権法 林良平著 青林書院/区分所有法の理論と動態 丸山英気著 三省堂/手形決済・不渡の法律紛争 木内宜彦編 有斐閣/裁判と立法 奥野健一著 第一法規/国際法に関する27年間の雑誌 文献目録 昭和23年一昭和49年 日外アソシエーツ/企業・現代社会・法 中村一彦, 志村治美編 三嶺書房/日本の財政政策 大川政三著 有斐閣/ヨーロッパの社会保障法 健康保険組合連合会編 東洋経済新報社/労働法学と法社会学 橋詰洋

三著 三省堂/労働法入門 外尾健一著 新版 有斐閣/新社会福祉理論 加茂陽編 法律文化社/福祉政策の基本問題 社会保障研究所編 東大出版会/社会福祉の基本問題 武永親雄[ほか]著 福村出版/犯罪心理学 細井洋子著 高文堂/新救貧法成立史論 伊部英男著 至誠堂/日本の少年非行 家庭裁判所現代非行問題研究会編著 新版 大成出版社/図説非行問題の社会学 松本良夫著 光生館/日本の防衛と国内政治 大嶽秀夫著 三一書房/脅威 一ソ連軍事機構の実態 A コックバーン著 早川書房/いのちの法律学 一脳死・臓器移植体外受精一 大谷實著 筑摩書房/無体財産権法概論 紋谷暢男著 第4版 有斐閣/コンメンタール証券取引法 田中誠二 堀口巨著 増補版 勁草書房/憲法概観 小嶋和司著 第3版 有斐閣/行政法入門 今村成和著 第3版 有斐閣/基本的人権と労働者 塩田庄兵衛 戸木田嘉久編 法律文化社/不当労働行為の法理 外尾健一編 有斐閣

グランド・スラム	グ	ラ	マ	ー
最終回	英			語

性を超越した?! 言葉

—イギリス伝統童謡『まざあ・ぐうす』を読む—

▼「ロンドン橋落ちる」で知られるイギリスの伝承童謡集『マザーグース』はフランスの作家ペローの童話のタイトル「がちょうおばさんのお話」にちなむがその内容はリズムカルな歌である。▼日本では大正9年に北原白秋が「赤い鳥」誌上に訳詩を連載し翌年大正10年には130篇をまとめて『まざあ・ぐうす』として出版した。▼取りあげた一篇「一切空」は軽妙に原典のリズムを反映した詩人の魂が光る典型だ。「一切空ちゅうおばあさんがどこかしらにござった。豆ちよろのお家におさまりかえってござった。そこへだれかがぬうとでて、かっど口あけ、すう、ぱくり。お家もおばあさんも一切空。」というぐあいだ。▼内容が単純であるのに、そのイメージをすぐ連想出来ないのはなんとも悲しいが、もし英語の幼児体験を経れば英語の習得はもっと容易になるのではないか。▼英語は独仏露の大陸の言葉とちがって名詞や形容詞の性を「超越」する。そのために大陸の諸語のように「ある種の自然な間」がとれず、一層メカニカルに展開するようだ。イギリスは工業国家への道を歩んだ国柄だったから、「性」などにこだわってはいられなかったのだろうか。▼英語の「there is (are)」はフランス語では「il y a」となり have 動詞が用いられ、ドイツ語では「es

There was an old woman
called Nothing-at-all

There was an old woman,
called Nothing-at-all,

Who rejoiced in a dwelling
exceedingly small;

A man stretched his mouth
to its atmost extent,

And down at one gulp house
and old woman went.

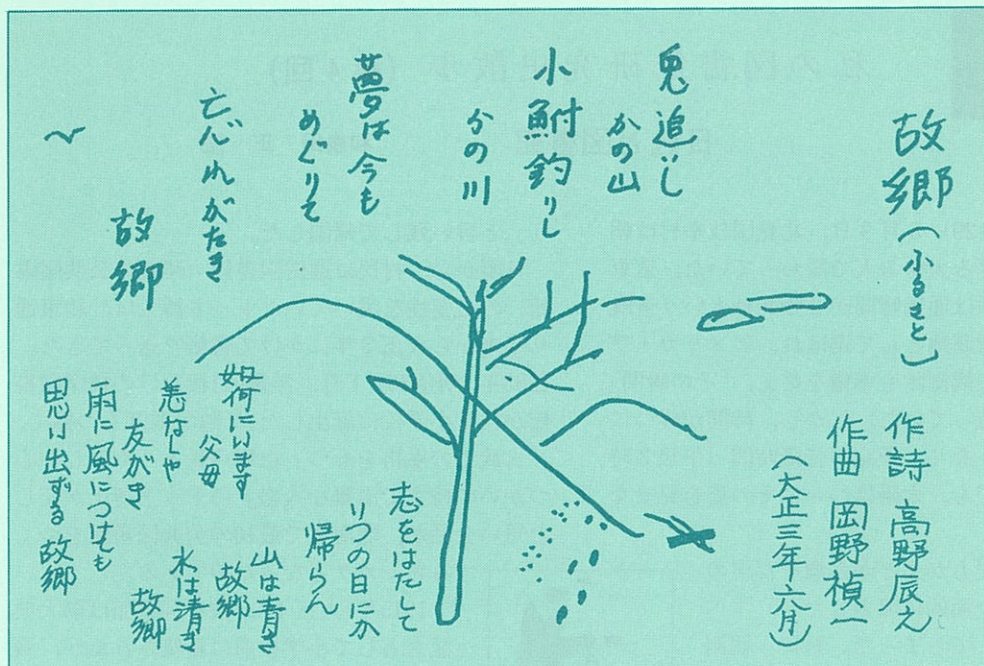
gibt」と「与える」を意味する一般動向 geben を用いる。露語はさらに「Y + 生格の人称代名詞 + ectb」と本来は用いない Be 動詞に当る ectb を用いている。「～がある」という表現にも「ところ変われば……」である。まさしく「文は国なり」というべきか。▼「マザーグース」訳は戦後では谷川俊太郎訳があるが、ほかに高田三九三、竹本藻風、平野敬治氏のものもあり英語の幼児体験をもつ機会は十分ある。だからとって「マザーコンプレックス」になるということはないのだ。

〈ほん〉 北原白秋訳『まざあ・ぐうす』(角川書店、1986年) 谷川俊太郎訳『マザーグース』(講談社、1971) など。

学生さんによる学生さんのための…

4月、32名の学生さんがモニターとなり学生用の図書を選んでくれました。その一部が整理を終えましたのでお知らせします。ご協力ありがとうございました。
 転換期の生活協同組合 野村秀和 大月書店/組織を生かす職務権限 泉田健雄著 日本経営者団体連盟弘報部/金融自由化と金融制度改革 谷田庄三編 大月書店/会計全書 昭和61年度版 中央経済社/マス・イメージ論 吉本隆明著 福武書店 1984.7/開国の使者 ハリスとヒュースケン 宮永孝著 雄松堂出版/活字にならなかつた戦後政治 首相官邸記者の証言 宮村文雄著 泰流社/法律学全集 17 鈴木竹雄有斐閣/ポケット註釈全書 有斐閣/法律学全集 45 鈴木竹雄編 有斐閣/日本国憲法 橋本公巨著 有斐閣/ブレップ民法 米倉明著 弘文堂/法のことわざと民法 山畠正男 北大図書刊行会/犯罪心理学 山

根清道編 新曜社/単一民族社会の神話を超えて 在日韓国・朝鮮人と出入国管理体制 大沼保昭著 東信堂/法人税法精説昭和61年版 武田隆二著 森山書店/現代の犯罪 間庭充幸著 新潮社/都市と人間 柴田徳衛著 東大出版会/力学 原島鮮著 3訂版 裳華房/よくわかる構造力学ノート 四俣正俊著 技報堂/土木職員採用試験土木重要用語の解説 角江登編 改訂増補版 理工図書/土木基礎シリーズ 彰国社/土質工学計算法 一土質および基礎の工学的計算法一 河上房義著 再訂版 森北出版/パウハウスからマイホームまで T.ウルフ著 晶文社/構造設計のためのパソコン100%活用法 一PC-8801・9801シリーズ一 嵐山正樹 佐藤良志則著 翔泳社/銃後の街一戦時下の長野・1937-1945一 川上今朝太郎著 大月書店/追跡・黒田清隆夫人の死 井黒弥太郎著 北海道新聞社/旅は俗悪がいい 宮脇檀著 グロビュー社/チャイナ・ダイアリー S.スペンダー著 新潮



岡野 楨一 (おかの・ていいち)

—遠い追憶の日の調べ—

▼明治14年、伊沢修二が編んだ『小学唱歌』は外国曲を主体にした日本初の唱歌集。それから30年。ようやく日本独自の楽想が成熟する。▼明治末年から大正初期に編まれた『尋常小学唱歌』に歌いつがれる名曲が多い。その中心的役割を果たしたのが作詩の辰野隆之と作曲の岡野楨一だった。▼二人のコンビの曲の中には「春が来た」「春の小川」「朧月夜」「紅葉」と共に「故郷」がある。

近代日本唱歌史の頂点に立つこれらの名曲は「遠い追憶の日の調べ」としていつまでも歌い継がれて行くことだろう。▼岡野楨一は鳥取県生れ。1941年70歳で没した。

〈ほん〉 堀内敬三編『日本唱歌集』(岩波書店、1958年) 金田一春彦編『日本の唱歌(上)(中)(下)』(講談社、1977年)

社/日本人の笑い 深作光貞著 玉川大学出版部/防衛は誰がために 変貌する自衛隊最前線 松本利秋著 廣済堂出版/パンダの親指 一進化論再考— 上, 下 スティーヴン・ジェイ・グールド著 早川書房/植物の代謝生理 H.ビーヴァース著 赤沢堯著 岩波/検索入門魚の図鑑 1, 2 岩井保著 伊藤勝敏写真保育社/新しい名馬のヴィジョン 山野浩一著 中央競馬ピーアール・センター/ホモ エレクトス 発情期を失ったサル 大島清著 あゆみ出版/隠れた秩序 二十一世紀の都市に向かって 芦原義信著 中央公論社/人工衛星〈新〉時代 平井正一著 岩波/ツーリング・ハンドバック —On & off ロード派のバイク完全マニュアル— 三好礼子著 CBS ソニー出版/絵本の新世界 今江祥智著 大和書房/ザ・グラフィティ —いま演劇の異兄弟姉妹たち— 新水社編集部編 新水社/大学生のための文章教室 松岡英夫著 毎日新聞社/八木重吉全集 1~3 (全3巻) 八木重吉

著 草野心平(ほか)編 筑摩書房/青が散る 宮本輝著 文芸春秋/テニスボーイの憂鬱 村上龍著 集英社 1985/その細き道 高樹のぶ子著 文芸春秋/窓にのこった風 山川健一著 中央公論社/とりあえず、絵本について 五味太郎著 リプロポート/アメリカ素描 司馬遼太郎著 読売新聞社/第四の核上, 下 F.フォーサイス著 角川書店/舞台・ベルリン—あるドイツ日記 1945/48 R.アンドレーアス=フリードリヒ著 朝日ニュース社/ロマン・ロラン精神の蜜房 清水茂著 小沢書店/東京発大統領の手紙が盗まれた F.ジルー著 新潮社

私の図書館研究史散歩 (第4回)

日蝕と図書館

和泉田 正 宏

1896年(明治29)8月9日、北見国枝幸村は朝から空を見あげる大勢の人で賑わっていた。道東の一漁村・枝幸は通過時間が2分40秒という皆既日蝕に最適の観測地として選ばれ、アメリカ・フランス・日本の観測隊も準備を終え、「その瞬間」を今や遅しと待っていた。しかし、時間が経つにつれて雲は厚くなり、予定の皆既時間(午後3時20分)を過ぎてても、太陽はついにその姿を見せなかった。

当日は、村民もかまどから煙をだすのをやめるなど全面的に協力したが、すべてが水泡に帰してしまった。村民・観測隊員はもちろんのこと、日蝕を見物するために道内各地から集まった数百人の人々は嘆き悲しんだ。とくにアメリカ観測隊長デヴィッド・トッド博士夫妻は空を仰ぎながら声をあげて泣いたという。

やがて観測隊の引揚げもせまった8月15日、白坂庫太・枝幸郡戸長は観測隊の一同を招いて送別の宴を開いた。その席上、トッド博士は白坂戸長に「近く本国に帰るが、村民の好意に酬いたい。何か希望はないか」と言った。白坂戸長は即座に「辺地のため、青年子女の修養に苦しんでいる。できれば博士が読み古した書籍でもあったら頂戴したい」と答えた。トッド博士は「それは大変良いところに気がついた。そのくらいのことなら易いこと、帰って御期待にそうことにしよ

う」と言い残して帰国した。

日頃から、村民に通俗図書館(現在の公共図書館)の必要性を説いていたトッド博士は、約束通り年末から大正7年にかけて書籍を送ってきた。1903年(明治36)1月、洋書911冊だけの枝幸図書館が枝幸小学校に誕生した。日蝕が取りもつ縁で、「古武士の風格をもつ」白坂戸長と「やさしい心づかいの持主で温雅な人格」のトッド博士が交した短い会話が、北海道で最初の公共図書館をつくるキッカケとなったのである。



David Todd
(1855~1939)

1915年(大正4)、枝幸図書館は御大典記念として小学校前に新築されたが、蔵書の80%が洋書であり、さらに村民自身が史蹟名勝観を抱きすぎていること、村当局に財政力が乏しいため和書を中心とする教養・娯楽書など充実の具体的努力が実を結ばなかったため、宝の持ち腐れの状態が続いた。そして1940年(昭和15

年)5月11日、近くで発生した山火事がありからの烈風にあおられた大火により、市街地にあった図書館はあっという間に灰燼に帰してしまった。

枝幸図書館はわが国の図書館史上きわめて特異な成立過程を有する。歴史が新しいとされる北海道にも、特筆すべき図書館が存在したという事実を忘れることはできない。

(本学事務部長・図書館事務長)

開館時間

本館

9:30~20:00 (月~金)

9:30~18:00 (土)

工学部分室

9:30~17:00 (月~金)

9:30~13:00 (土)

日曜祝日、創立記念日は休館いたします。

北海学園大学附属図書館報

図書館だより

Vol.8 No.4

(通巻 100号)

本館 〒062 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号
(011) 841-1161 内線 272~275

工学部分室 〒064 札幌市中央区南26条西11丁目
(011) 561-2911 内線 64